

テ、他ハ悉ク省略ニ從ヘリ、

〔日本書紀八〕二年二月戊子、幸角鹿、即興行宮而居之。○中三月丁卯、天皇巡狩南國。○中使遣角

鹿勅皇后○神功曰、便從其津發之、逢於穴門。六月庚寅、天皇泊于豐浦津、且皇后從角鹿發而行之、到

淳田門、食於船上、時海鯽魚多聚船傍、皇后以酒灑鯽魚、鯽魚即醉而浮之。七月乙卯、皇后泊豐浦津、

是日皇后得如意珠於海中、

〔中右記〕天仁元年三月廿日、藏人辨仰右大將云、今夕皇后宮○鳥羽可有行啓召仰事、了大將移著端

座間、外記被下歟。○中皇后宮今夜出御、○日者御子御車寄東廊北面戶、○御車此間被仰勸賞、○權大夫顯

位、又女房藤繁子叙從五位上、頭爲房朝臣仰內大臣、大臣召藏人辨顯隆、被仰下了、行啓成、左少將顯國、右少將宗能、

爲啓次將、先有反閉○家榮次出御給、鳥丸五條洞院東大路、大炊御門、堀川、至二條本御所、

〔中右記〕元永三年三月十九日、今夜子刻許、中宮○璋俄出御院御所、大夫二人外、別當宰相中將信通

參仕、御手車懸牛、出御者、是依御邪氣發始也、廿一日辛酉、今夕中宮從院正親町御所、可渡御三條

鳥丸亭也、仍晚頭參仕、右大將以下、上達部十二人參仕、

〔中右記〕天承二年二月十八日、今夜中宮○崇德從內行啓東三條御輿也、○中是依吉日、有此行啓也、

來廿八日、依御塔供養、可有行啓也、而當滿忌日也、初行啓可有憚由、陰陽師依申、今夕仍行啓也、

〔續世繼四〕宇治の河瀬、白川院かくれさせ給てこそ、ほいのごとく、殿○藤原のひめ君○泰たてまつ

り給て、女御の宣旨かふり給、皇后宮○鳥羽天皇讓位にたち給てのちは、院號聞えさせ給て高陽

院と申さ○中きさきの宮のはじめつかたも、宇治の御幸ありて、皇后宮ひきつゝきていらせ給

し、うるはしき行啓のやうには侍らで、みなかり衣にふりうなぞして、女房の車いろくにもみ

ぢのにはひいだして、さうしなどもみなくなるまにのりてなん侍し、さきく、白川院の御時は、さ

うしはみな馬にのりて、すぎがさ、たゞのかさなぞきて、いくらともなくこそつゝきて侍しか、こ